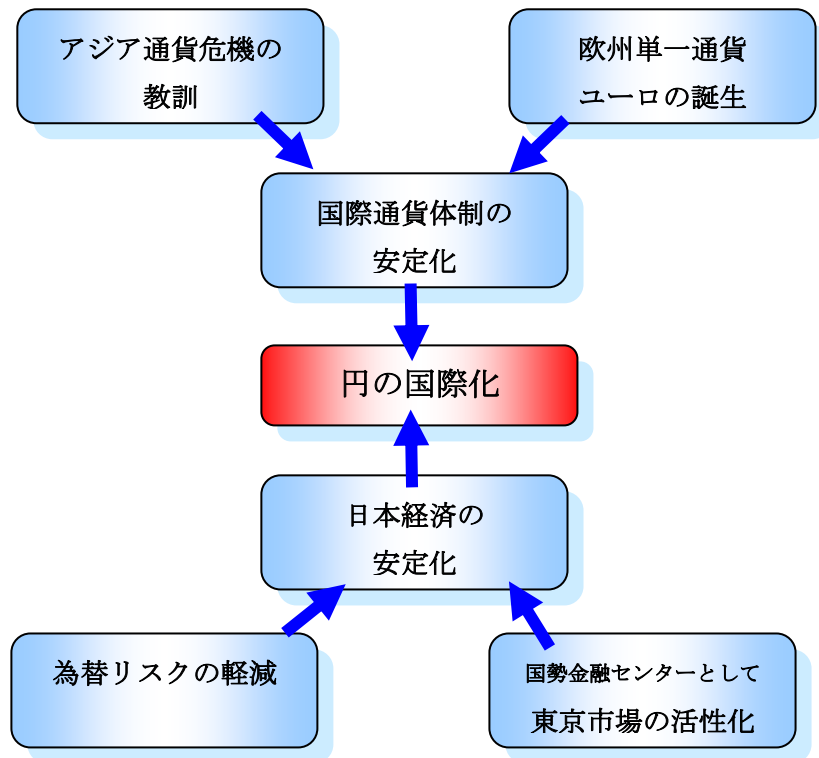


円の国際化

日本の「円」を国際社会で広く使われるようにする「円の国際化」が停滞している。世界の貿易や外貨準備で、円が使われる比率は 5%程度。日本の貿易もドル建てで中心で、為替リスクは日本企業が負担している。貿易で稼いだ黒字もドル建て投資が多く、長期的な円高ドル安でドル資産は目減りした。貿易や投資が円で決済できれば、こうしたリスクを減らすことができる。

なぜ「円の国際化」が必要なのか？



「円の国際化」とは、日本の円が外国の企業や投資家に保有され、貿易取引や国際的な投資で広く使われるようになることをさす。例えば、輸出をドル建てで決済すると、円高ドル安に為替が働いた場合、商品のドル建て価格が変わらなければ、受け取ったドル代金を円に替えた時、円での手取額が少なくなる。しかし円建てで決済できれば、100 円の商品は 100 円で輸出するので手取額は変わらない。

投資も同じ。ドルで投資すれば円高ドル安になったとき、円の手取り額は少なくなる。日本の生命保険会社など機関投資家は米国国債に投資してきたが、1980 年代半ばからの円高ドル安で大幅な為替差損を被った。円建てで貿易や投資ができればこうした為替リスクを避けることが出来る。為替がドルに連動していたタイやインドネシアは 1997 年夏、ドル建て資金が急激に流出した為に通貨危機に陥った。

だが、アジア通貨がドルだけでなく円やユーロにも連動して動くような為替相場の仕組みができれば、こうした危機の再発防止に役立つ、と考えられる。

(1999 年 9 月 5 日 東京新聞より)

余白設定：上下左右 20mm

段落設定：字下げ 1 字

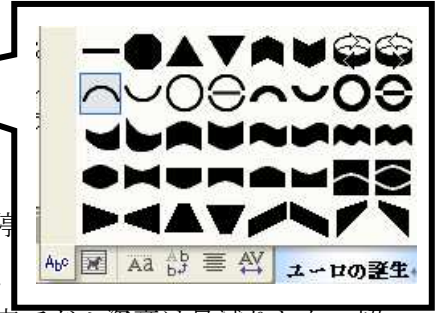
フォント：MS 明朝 基本=10.5p (表の中 太字)

「なぜ、円の国際化が必要なのか？」=14p 太字

図の中の「国際金融センターとして」のみ 8p 太字

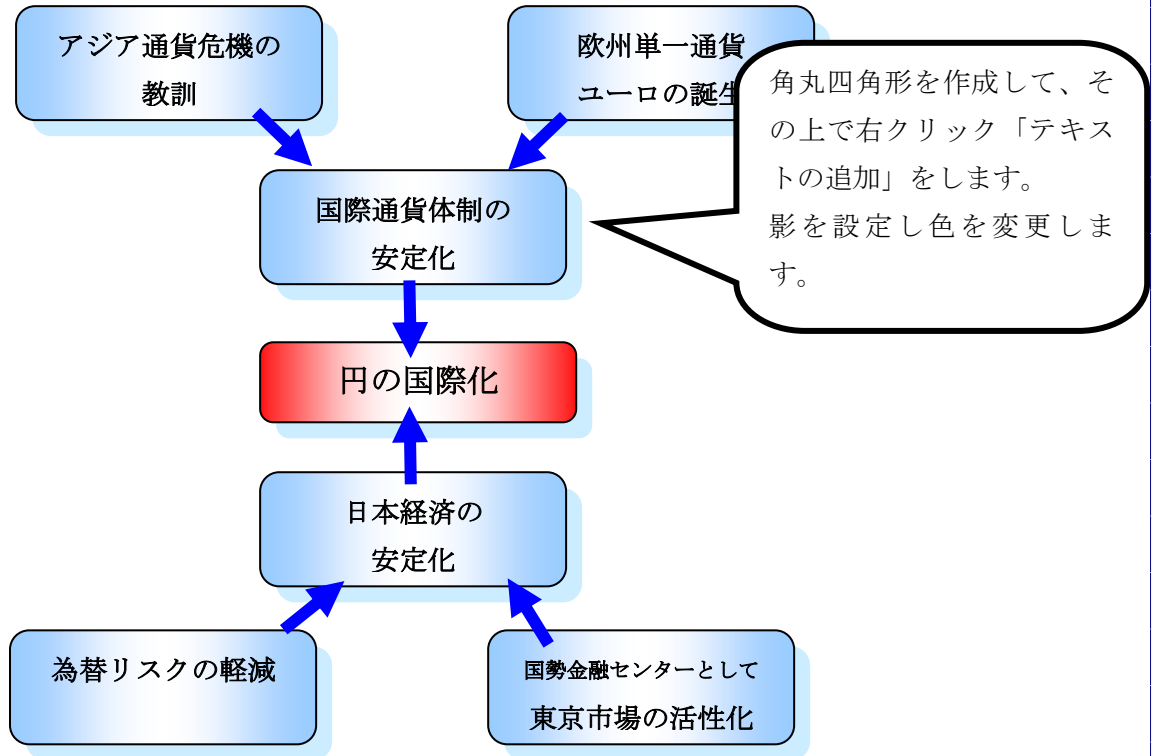
(解説)

円の国際化



日本の「円」を国際社会で広く使われるようにする「円の国際化」が貨幣準備で、円が使われる比率は 5%程度。日本の貿易もドル建て中心で、している。貿易で稼いだ黒字もドル建て投資が多く、長期的な円高ドル安でドル資産は目減りした。貿易黒字下げ1字算できれば、こうしたリスクを減らすことができる。

なぜ「円の国際化」が必要なのか？



角丸四角形を作成して、その上で右クリック「テキストの追加」をします。影を設定し色を変更します。

「円の国際化」とは、日本の円が外国の企業や投資家に保有され、貿易取引や国際的な投資で広く使われるようになることをさす。例えば、輸出をドル建てで決済すると、円高ドル安に為替が働いた場合、商品のドル建て価格が変わらなければ、受け取ったドル代金を円に替えた時、円での手取額が少なくなる。しかし円建てで決済できれば、100 円の商品は 100 円で輸出するので手取額は変わらない。

投資も同じ。ドルで投資すれば円高ドル安になったとき、円の手取り額は少なくなる。日本の生命保険会社など機関投資家は米国国債に投資してきたが、1980 年代半ばからの円高ドル安で大幅な為替差損を被った。円建てで貿易や投資ができればこうした為替リスクを避けることが出来る。為替がドルに連動していたタイやインドネシアは 1997 年夏、ドル建て資金が急激に流出した為に通貨危機に陥った。

だが、アジア通貨がドルだけでなく円やユーロにも連動して動くような為替相場の仕組みができれば、こうした危機の再発防止に役立つ、と考えられる。

(1999 年 9 月 5 日 東京新聞より)

余白設定：上下左右 20mm 段落設定：字下げ 1 字
 フォント：MS 明朝 基本=10.5p (表の中 太字)
 「なぜ、円の国際化が必要なのか？」=14p 太字
 図の中の「国際金融センターとして」のみ 8p 太字